

令和 4 年 9 月 5 日現在

機関番号：37104

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K01908

研究課題名(和文) ファミリービジネス承継外子女起業家に関する探索的研究

研究課題名(英文) An Exploratory Study on Family Business Non-successor Entrepreneurs

研究代表者

川路 崇博 (Kawaji, Takahiro)

久留米大学・文学部・准教授

研究者番号：90554246

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：事業承継の候補者でありながら自ら起業した「承継外子女」について、その特徴は、1)キャリア選択に対し、非常に自律的な態度を持つ、2)エフェクチュエーションを用いてビジネスモデルを構築しながら企業する、3)ファミリービジネスをロールモデルと考え、それを乗り越えようとしている、の3点であることが明らかになった。また承継外子女起業家を通じたファミリーアントレプレナーシップは、利他・コミュニティ・長期思考、それらを達成するリスク性向の2要因から構成されていることも分かった。さらに、ファミリービジネスから、人的資本を形成するスキルや外向的な性格を受け継ぎ承継外子女は起業に至っていると考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

起業家育成と起業家の絶対数の増加が喫緊の課題といわれながら、見通しは立っていない。そのようななかファミリービジネス子女でありながら継承者から漏れた「承継外子女」の存在を、地域経営・地域創造活動を研究するなかで見出した。インタビュー結果をM-GTAで質的分析した結果、承継外子女がもつ特徴と、承継外子女がファミリーアントレプレナーシップより受けている影響を明らかにすることができた。さらに出身ファミリービジネスからなにを受け継いで事業創造をしているかについて検討を進めた。

研究成果の概要(英文)：The characteristics of the "non-successor entrepreneurs" who were candidates for business succession yet started their own businesses were found to be 1) a very autonomous attitude toward career choice, 2) starting a business while building a business model using effectuation, and 3) considering the family business as a role model and trying to overcome it. The study found that family entrepreneurship through non-successor entrepreneurs consists of two factors: altruism, community, and long-term thinking, and the risk propensity to achieve these factors. In addition, probably the non-successor entrepreneurs inherit human capital building skills and outgoing personalities from the family business.

研究分野：経営学

キーワード：事業承継 承継外子女起業家 ファミリーアントレプレナーシップ

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、事業承継から漏れ、自ら起業した「承継外子女起業家」を対象とし、その活動の特徴と成功要因は何かについて探索するものである。

すでに事業承継に関する問題は顕在化しており、ファミリーによる事業の承継だけにとどまらない範囲についても、中小企業庁などを中心とした取り組みがある。しかしながら、人口減時代を迎えた日本経済の振興策として起業家育成と起業家の絶対数の増加が喫緊の課題とされながらも、解決の見通しは立っていない。特に研究代表者らが報告したファミリービジネス子女でありながら継承者から漏れた「承継外子女」の起業家活動への注目は皆無といってよく、国策として経営的・資金的な支援もほばない上、研究も十分ではない。

本研究における「承継外子女起業家」とは、ファミリービジネスの事業継承から漏れ、自身でビジネスを起こした者(起業家)である。研究代表者らは、地域経営・地域創造活動を共同研究する中で、承継外子女起業家の存在を見出した。また、承継外子女起業家たちが地域経済において人的ネットワークを築くファミリーを背景にした起業家活動によって、地域経済の主導的立場にいることも見出した。承継外子女起業家に関する報道や学術研究は十分でない中、研究代表者らはこれまでの研究の過程で、このリサーチの空白域を見出した。こうした経緯より「承継外子女の起業家活動の特徴と成功要因は何か」という問題意識を持つに至った。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、これまで不明であった承継外女子の起業家の特徴と成功要因を明らかにすることである。そして、承継外起業家の支援策と起業家育成、ファミリービジネス振興策に対する新視点の提示を目指す。

起業家の育成は喫緊の課題で様々な取り組みが熱心に行われているが、日本の新規開業率は米国比 1/3 以下と極めて低水準に止まる。国内を鑑みても、地域経済を支えるファミリービジネスは注目を集める一方だが、承継者不足による黒字閉業が問題となっている。これまで同族での事業継承に関する研究は多いが(落合, 2016)承継外のファミリーについての研究は皆無といえる。

加護野(2008)は、ファミリービジネスをファミリーに注目してビジネスを考えるという分析視角において、経営の研究と人文社会科学の研究の接点の研究となるため、経営と地域社会や文化とのかわりが見えてくるとしている。これを裏付けるように、我々はこれまで地域での起業家活動を研究するなかで、多くのファミリービジネスとその承継者・承継予定者と出会うとともに、ファミリービジネスを承継せず自ら起業する者がいることを見出した。同時に、彼らが地域経済活動の中心的な立場にいることも発見した(Kang & Kawaji, 2016)。こうした経緯より「承継外子女の起業家活動の特徴と成功要因は何か」という問題意識を持つに至った。

国内の女性経営者を対象にした調査で、親が経営者だったとの回答が 56.9%を示す調査(筒井・田中, 2007)もあるなど、承継外子女の起業家ポテンシャルを示す研究は数多い。しかし、これまで研究対象とされてこなかった。

これまでの複数の起業家研究が示す通り、ファミリービジネス家庭では起業家や事業者としてのメンタリティの暗黙知継承が存在する。そこで承継外子女起業家に関し、これを空白域と考え、研究対象と位置付け以下3つを目的として設定した。

- ・ 承継外子女起業家の起業家活動の特徴を明らかにすること
- ・ 承継外子女起業家の起業プロセスやビジネスモデルに、ファミリーアントレプレナーシップはいかなる影響を及ぼしているかを探索すること
- ・ 承継外子女起業家はファミリービジネスから何を受け継ぎ、何を加味して事業創造しているかを探索すること

### 3. 研究の方法

承継外子女起業家となるには、次の3つの場合が考えられる。

- (1) きょうだいの序列やスキルの差から、継承者対象から漏れた場合
- (2) 継承予定であったが自らの意思で継承しない場合
- (3) 継承前にファミリービジネスが消滅し継承者となれない場合

本研究では上記のうち(1)(2)の承継外子女起業家として対象とする。

本研究は、承継外子女起業家の起業プロセス・成功要因を、本人の起業家性向(E0)・環境、起業に関する意思決定プロセス、の2点から明らかにする。では Entrepreneurial Orientation (E0) 研究の中から「E0と組織パフォーマンスモデル(Lumpkin & Dess, 1996)」を採用する。

については「エフェクチュエーション理論(Sarasvathy, 2001, 2008)」を採用する。同理論において、起業家は事前の市場分析など合理的な行動とそれに基づく意思決定を採らないことが示されている。この研究では、今できることから始め、可能な損失額を把握し、明確な目標より柔軟性を優先し、営業しながらパートナーシップを育て、機会を創造するとされて

いる。

2019年12月から2020年2月にかけて、承継外子女起業家へのインタビュー調査を実施した。スノーボールサンプリングとし、理論的飽和が見られた11人でインタビューを終了とした。インタビューは半構造化インタビューとし、事前に作成したインタビューガイドに沿った。

インタビューは許可を得て録音し、その音声データをテキスト化した。「承継外子女起業家の起業家活動の特徴」と「承継外子女起業家の起業プロセスやビジネスモデルに、ファミリーアントレプレナーシップはいかなる影響を及ぼしているか」に関しては、研究代表者と研究分担者を中心に他研究者を交え、M-GTAを用いて分析した。具体的にはデータの細分化してデータにラベルを付与、ラベル同士をまとめて上位概念を作るオープンコーディング、さらにオープンコーディング同士を関連づけるセレクトティブコーディング、これらをカテゴリーとしてまとめた。

「承継外子女起業家はファミリービジネスから何を受け継ぎ、何を加味して事業創造しているか」に関しては、KJ法を用いて分析を進めている。KJ法では、コーディングしたデータを探索するプロセスの中から新たな事象を見出す。

#### 4. 研究成果

まず、承継外子女起業家の起業家活動の特徴について分析した。承継外起業家は独立志向が強く、エフェクチュエーションロジックの使用も活発である。起業時には、プリミティブなアイデア、または何もアイデアがないような状態で起業している。家族の影響と、自分自身のビジネスに対する野心が強く、時には出身ファミリービジネスを克服することがキャリア目標となるファミリービジネスロールモデル効果も観察できた。

承継外子女起業家の起業家活動の特徴は、以下3点にまとめられる。

- (1) キャリア選択に対し、非常に自律的な起業家的態度
- (2) エフェクチュエーションを用いてビジネスモデルを構築しながら起業する
- (3) 出身ファミリービジネスをロールモデルと考え、ファミリービジネスを乗り越えようとする意欲が高い

次に、承継外子女起業家の起業プロセスやビジネスモデルに、ファミリーアントレプレナーシップはいかなる影響を及ぼしているかについて分析を進めた。承継外子女起業家の起業活動を通して分析したファミリーアントレプレナーシップは、利他・コミュニティ・長期指向と、それを達成するためのリスク性向、2つの要因から構成されていた。

承継外子女起業家は家庭内外でファミリーアントレプレナーシップを伝承、認識し、承継外での起業期にはそのファミリーアントレプレナーシップを背景に社会貢献を当初から意識しながら起業活動をしている。発展期には家業やファミリーアントレプレナーシップを客観視することで自身の事業を振り返り、収益力向上のみならず更なる社会貢献も目指す。

現在、承継外子女起業家はファミリービジネスから何を受け継ぎ、何を加味して事業創造しているかに関して分析を進めている。これまでの分析では、承継外子女起業家は経済的独立するまで(成人になるまで)におけるファミリーでの事業体験と関連学習が、人的資本を形成するスキルや外向的な性格形成に作用しており、事業創造に影響していると考えられる。

#### < 引用文献 >

落合康裕、事業承継のジレンマ 後継者の制約と自律のマネジメント、白桃書房、2016

加護野忠男、学術からの発信 経営学とファミリービジネス研究、学術の動向、13、1、2008、60 - 70

Kang, R., Kawaji, T., Entrepreneurial Activities and Residential Networks of Creative Areas in Japan and Korea, Journal of Japanese Management, 1, 1, 2016, 15 - 26

筒井清子、田中睦美、女性経営者とジェンダー、京都マネジメント・レビュー、2007、53 - 67

Lumpkin, G., Dess G.G., Clarifying the Entrepreneurial Orientation Construct and Linking It to Performance, Academy of Management Review, 21, 1, 1996, 135 - 172

Sarasvathy, S.D., Causation and Effectuation: Toward a Theoretical Shift from Economic Inevitability to Entrepreneurial Contingency, Academy of Management Review, 26, 2, 2001, 243 - 263

Sarasvathy, S.D., Effectuation: Elements of Entrepreneurial Orientation, Edward Elgar Publishing, Cheltenham, 2008

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Kang R., Kawaji T.  |
| 2. 発表標題<br>Exploring the Characteristics of Japanese Non-Successor Entrepreneurs |
| 3. 学会等名<br>IFERA 2020 Conference (国際学会)  |
| 4. 発表年<br>2020年  |

|                                 |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名<br>姜理恵, 川路崇博            |
| 2. 発表標題<br>ファミリービジネス承継外子女起業家の特徴 |
| 3. 学会等名<br>第13回ファミリービジネス学会全国大会  |
| 4. 発表年<br>2020年                 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                   | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                              | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 研究分担者 | 姜 理恵<br><br>(Kang Rihyei)<br><br>(90570052) | 北陸先端科学技術大学院大学・先端科学技術研究科・准教授<br><br><br><br>(13302) |    |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

|         |         |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|